

〇ふるさとをこの名刺で発信！ つながりを求めて ～紙漉き班～

10月11日(金)、民芸班紙漉きグループは、射添小学校5年生9名に、射添紙による名刺作りを通してふるさと教育を行いました。村岡区長須の「紙処ながす」の本多秋香さんのご指導をうけ、名刺とメッセージカードを作りました。これまでも名刺を作成し、浜上香美町長にもお渡ししています。小学生にも丁寧に教えることができました。



この地域でどうして和紙(射添紙)が作られるようになったかという、この地域が冬にとっても雪が多く、畑や山の仕事ができないうえに、男の人が出稼ぎに出ているので、この地に残った女性や高齢者、子供たちでできる仕事、収入源として紙漉きが伝統的に行われていたということです。



体験は2班に分かれて行い、作業を待つ間に村の中を回って和紙の原料となる楮(こうぞ)の木を探しました。そして、和紙と他の紙との違い、射添地区で作らなくなった理由、「ネリ」と「のり」との違い、紙漉きを行う時期などの問題をクイズにして小学生に考えてもらいながら村を歩きました。



この紙漉き体験を、ふるさと教育の一つに位置付けること、そして、作成した名刺やメッセージカードでふるさとのことを伝え、人とのつながりを作ってほしいという、本校生の思いは、子供たちに伝わったでしょうか。

今回は、私にも素敵な名刺も作っていただきました。この名刺で、また新たな人とのつながりができればと思います。ご協力、ご指導いただきました本多様、射添小学校の皆さん、ありがとうございました。

